キャラクター名
凛音　瑠

プレイヤー名

シンドローム	エグザイル バロール	ワークス	高校生	カヴァー	高校生
オプショナル		年齢	１７	性別	男
覚醒	渇望	衝動	嫌悪	初期侵食率	32　%
出自	兄弟	経験	死と再生	邂逅	腐れ縁

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	2	1	0			3
感覚	2	0	2			4
精神	2	0	0			2
社会	2	0	0			2

HP	28
行動値	10
(非装備時)	10
戦闘移動	15
全力移動	30

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			ＲＣ	4		交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：噂話	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
薔薇撒鬼	ＲＣ	2r+4		5		細胞浸食＋異形の祭典＋コンセ＋無機なる四肢　浸蝕８
薔薇撒鬼・悪魔	ＲＣ	2r+4		0		８０↑細胞浸食＋異形の祭典＋悪魔の影＋コンセ＋無機なる四肢　浸蝕１３

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
起源種	P	N		
凛音　奏	P　信頼	N 劣等感		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:　4	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
時の棺	★	10	オート	視界	単体	自動	100↑	
効果：相手の判定の直前に使用　行動失敗させる　１シナリオ１回								
悪魔の影	★	5	メジャー	視界	単体	対決	80↑	
効果：ダメージのない射撃攻撃　次の攻撃に対してリアクションを行えない								
デビルストリング	3	6	オート	視界	単体	自動	ー	
効果：タイミングオートの制限がないエフェクトを使用した直後に使用　相手の行動キャンセルを１シナリオにLV回								
デビルスレッド	2	4	オート	至近	自身	自動	リミット	
効果：デビルストリングと同時使用　対象が使用した制限があるもののエフェクトを消せる　１シナリオにLv回								
異形の祭典	2	3	メジャー	ー	Lv＋１	対決	ー	
効果：組み合わせた攻撃の対象をLv＋１体に変える　シーン1回								
細胞浸蝕	5	4	メジャー	視界	単体	対決	ー	
効果：RC射撃攻撃　重圧・邪毒を与える　邪毒はLV　１シーン１回								
無機なる四肢	1	1	メジャー	視界	ー	対決	ー	
効果：RC射撃攻撃 攻撃力＋（Lv＋４）この攻撃に対してドッジダイスー１								
コンセントレイト	2	2	メジャー	ー	ー	ー	ー	
効果：クリティカルの値を下げる（下限７）								
アナザーセルフ	★	4D10	オート	至近	自身	自動	120↑	
効果：取得エフェクトの使用回数１回復。１シナリオ１回								
異形の歩み	★	ー	常時	至近	自身	自動	ー	
効果：どんな場所でも歩ける　GMが必要だと判断したら肉体判定								
鍵いらずの歩み	★	ー	メジャー	至近	自身	自動	ー	
効果：人間が通れない隙間も通れる								
屑鉄の橋	★	ー	メジャー	視界	効果参照	自動	ー	
効果：重力操って足場とか作る								
効果：								

凛音瑠は市街を級友たちとバイクで暴走し、トラックと激突する事故を起こす。
昏睡状態へ陥った彼は懸命の治療も虚しく病室で息を引き取った。

そのはずだったが、酷い錯乱状態になりながら突如として目覚めた。
体を変形させながら暴れ回ったが、なんとか鎮静剤を投与され眠りについた。
その後、幾度かの錯乱を経て落ち着きを取り戻したが、
以前のような自信に満ち溢れ力を誇示していた面影が感じられないほど
何かに酷く怯え、周りを威嚇するような状態になっていた。

ああ、死は冷たいだとか、温かいだとか、意識がなくなるだとか、そんな話は嘘だった。
そこにあるのにそこにいない。
気持ち悪い感覚が体の内側を舐め回し、外側も舐め回し、体の境界が曖昧になる。
どこからが俺の体で、どこまでがなんなのかわからない。
薄暗い感情や、抑え込めないほどの感情。
その両方が奔流となって身を粉々にしようとする。
これは俺の感情なのか？意識はあるのにわからない。
本当に意識があったのか？なかったのかもしれない。
どうでもいい。逃げたい。そう、逃げたいんだ。
俺は逃げたい。逃げなければ。
逃げたい逃げたい逃げたい逃げたい逃げたい嫌だ嫌だ嫌だ嫌だ嫌だ嫌だ。